執行部答弁

JR西日本の10年先のビジョンを示してこそ

川原 業務部長

◆安全には、やはり余裕がいる。安全検証アンケートの中でも、多くの組合員さんから、やはり安全を確立するためには、余裕が必要だというようなことを、安全の課題としていただいている。我々としては、余裕＝安全ということを会社に強く訴えている。

引き続き、余裕ある要員が業務内容の精査も含めて、しっかりと対応していきたい。

◆地本独自の様々な安全の取り組みに感謝申し上げる。

福知山線列車事故は、JR西労組の安全の取り組みの原点だが、それぞれの地本で起こった事象、事件、事故等々それらの積み重ねでJR西労組全体があることを共有しなくてはならないと考えている。そのためには、それらの事象を風化させることなく、他地本にも広く発信していただくことをお願いする。

◆安全検証アンケートは、会社も注目している。今回は98・2%だが、これらが100%なのか98・2%なのか、この差は非常に大きい。次回また検証アンケートを実施するので、100%達成よろしくお願いする。

◆施策の関係については、期日ありきでないと会社とも相当議論している。このコロナ禍で、議論ができないのであれば当然先延ばしになっていくし、本部としてもしっかりフォローしていくので、何か困った事があれば早急にお伝えいただきたい。期日ありきではない。これはしっかりと確認していますので、是非自信を持ってそれぞれやっていただきたい。

◆今回の博多総合車両所の労働災害は非常に大きい話だと思っている。グループ会社・協力会社の労災は、年々増加傾向にある。このことについて皆さんと共有したいと思っている。今回の博多総合車両所の労災については、新幹線協議会と本部で、合同で申し入れを出している。

グループ会社を含めて何ができるのか、安全に関して議論を深めていきたいと思っているので、新幹線協議会のご支援をよろしくお願いする。

◆今回の安全検証アンケートに、様々なご意見をいただいたが、「守りにくいルールになっている」の関係では、職防の関係が多い意見を頂いている。

実は、職防ができてから、待避不良も触車事故も全く減っていない。本当に今の職防でいいのか、会社と議論をしてきたところである。

今の職防はいろいろなことを書きすぎていて、あまりにも複雑過ぎる。本当に大事なものは何なのかということが見えない。実際に現場で働いている人にとって分かりにくい声を訴えてきた。その中で、今回初めて会社も一定我々の主張も受け止め、労使でしっかり議論していきたいという前向きな回答を得た。

これは、間違いなく、職防の改訂に向けて、労使が同じベクトルを向いているということである。是非、各地本・総支部からのご意見を頂戴したい。職防の改訂を必ず実施する。

◆各種発表会については、もともと、各地本・総支部から、負担が大き過ぎるのでないかという声をいただいている。今回コロナとは切り離して議論してきた。その中で安全活動研究発表会とCSフェスティバルとを統合してJR西日本グループ考動推進発表会とした。KAIZEN・VEについても組み込むため、負担の軽減になったと思っている。

発表会は何のためにやるのか、水平展開して全員のものにするのかが大切だが、実はそうはなっていない。職場で全く共有がされていないように散見されているので、本社・本部間でも議論をしていきたい。

◆グループ会社・協力会社との関係について、昨年の電気部門でもあったが、5年10年先にどうしたいのか、どういった技術をJRは持っておかなくてはいけないのか、どんな技術をグループ会社・協力会社に渡すのか。そこを明確にしなければいけないと思っている。

車両部門が、5年10年先に、どういった状態になるのか。今現場は相当混乱していると聞いている。すべてテクノスが業務を取っていくのではないか、そんな噂が蔓延していると聞いている。

そうではなく、JRがどうなっていくのか、テクノスがどうなっていくのかも含めて、明確なビジョンを示すことが大切だと考える。

◆コロナ対応について、改めてお礼を申し上げたい。(泥沼のなかで)一定迅速にきちんとした措置ができたのは、すべて、各地本・総支部がタイムリーで的確な要望・要求を上げてくれたおかげで、本社と膝をつき合わせて、真摯な議論ができ、JR西労組の声が大きな役割を果たした。

まだまだ第二波、第三波と続くと言われているが、その中でも、是非タイムリーで的確な現場の声を上げ続けていただきたい。

◆今回のコロナ禍でいろんなことが分かってきた。新しい生活様式に則った新しい働き方スタイルが出現してきた。時差出勤、テレワーク、オンライン会議等いろいろな働き方があるが、2020年総合労働協約改訂交渉の中でも、こういった働き方についても、求めていきたい。

今回いろんな会議や研修を中止・延期にした。テレワーク、サテライト勤務など新しい業務も経験した。今回実施した業務について、どんな傾向があったのかなど、検証をしていきながら、今後の働き方改革の観点や展望について、議論を深めていきたいと思っている。

各地本・総支部のなかでも、やってきたことの検証も、お願いしたい。

◆安全に関する議論は、新しい生活様式に則ってJR西労組もいろいろな会議をやっていくが、議論を深めるためには、膝を突き合わせることも、考慮に入れて可能な限り集まって議論していく。

◆コロナの際、「一時帰休を年休と同等」と捉えている組合員が多くいることについて、説明不足だったと大いに反省している。会社のこの危機的状況に、本部としては、時間のない中、賃金保障にとにかくこだわって、なんとか「100／100」という形に持っていった。

◆工務系の地上職の対応について、なかなか前に進んでいない事に対して反省をしている。例えば、獣害について、死骸処理した後に、動物の血がついた靴で事務所に出入りするのはどうか。そういった問題でもあると認識している。

◆コロナの関連で、協力会社、ホテル、旅行業等、様々なグループ会社の支援をお願いするとの声をいただいている。上村委員長、羽野書記長にも、労使安全会議で、グループの支援をとにかく頼むということも強く言ってきている。そんな中、社長からも、協力会社、取引先、テナント等のサプライチェーンを守るといった言葉を、しっかり受けたことも、是非ご理解いただきたいと思っている。

◆バス事業の副業については、我々の申し入れに対して一定議論はしたけれど、会社からは、今はその状況にない、安全を司る社員として、まずは自分の業務に専心してほしいということである。

◆夜行バスでの傷害未遂事件について、中バス地本の中では、バスジャックの訓練をやっていただいているが、バスの運転手・乗務員をどうやって守っていくのかについては、JR連合と連携し調整していきたい。

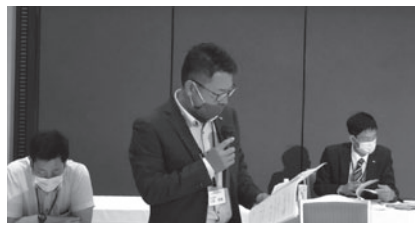
◆今回の運動方針では、バス事業のページが大幅に増えたのを理解していただいていると思っている。

◆小学校の休業補償は、非常に難しい問題だと思っている。実際に申請すれば確かにできるといえばできるが、新たな有給の休みを設けて、さらにそれがすべての小・中学生の親が対象となれば、JR西日本の要員が持つのかと言われれば、決してそうではないと思っている。

会社としては、育児休暇や看護休暇で、一定対応できるという判断である。

◆駅の契約社員については、しっかり受け止めている。不合格になった人が、次に進めるように、声を大にして言っていきたい。

◆春闘の関係については、賃金実態調査100%集約をお願いしたい。ローンの関係については、本部としてしっかり受けとめたい。



執行部答弁を行う、上から川原部長、福本部長、白壁副委員長、池上部長

JR西労組の組織力を発揮

福本 企画部長

◆Live形式での大会が開催できたことに対して、事前の準備から携わっていただいた、各地本・総支部の関係役員の皆様、本部青年女性委員会の皆様に改めて感謝を申し上げたい。初めての経験であったが、臨機応変に対応し、見事に作り上げることができ、改めてJR西労組の組織力を感じたところである。

◆今年も賃金実態調査を実施する。今年は、ボーナスの主な使い道を把握し、2021春闘で組合員の生活の安定を重視した闘いを展開したい。100%の回収に向けてご協力をお願いする。

◆引き続き、自治体訪問を実施し、2019年5月に開催した政策シンポジウムで土井先生からご講演いただいた、「クロスセクター効果」の考え方を自治体と共有したい。

1企業1組合の悲願達成を

白壁 副執行委員長(組織)

今、議会傍聴等、取り組みを行なっていただいているが、応援した人が何をしているかということを、分かりやすい掲示を作っていただいているということで、引き続き、活動のお知らせ・報告をお願いしたい。

◆青年女性委員会というのは、年齢を限られた中で、組織を預かって、人を預かって、自分たちで悩み苦しみながら、いろんな活動・経験をしていくところである。組合活動の入門として、是非とも活躍していただきたいと思っている。

◆基本組織は青年女性委員会の活動をしっかり下支えしていただきたい。

◆他労組について、ご意見をいただいている。職場の安全、会社の安全、お客様の安全、社員の安全については、他労組とともに活動をしてきた経緯がある。ただ、最後は、私たちの組織・JR西労組に入っていただいて、一緒に活動することで、1企業1組合を目指したい。これが本部の方針であり、ご協力をお願いしたい。

◆一体どこの労働組合が、組合員のために、制度獲得のために戦ってきたのか。それはJR西労組しかあり得ない。是非、他労組のみなさんにも、職場を守る・雇用を守る・安全を守る運動を一緒にしましょうと呼びかけて、JR西労組に入っていただきたい。

コロナ禍に、まず何をするか。どこの他組合も、まず保険とかを見直して、出費を減らすということです。私たちは、共済というものを持っている。自分たちの生活プランを考えてみて、ぜひ共済に入ってもらいたい。組合員のみなさんの生活を支えていきたいと思っているので、よろしくお願いする。

今回、JR西労組は、防止対策を講じて集まる機会を作ろうということで、こういう形で、開催させていただいた。今まで同様の職場集会等、JR西労組の組合員と顔を合わせ、声を聞く、そういう運動をこれからも続けていただきたいので、よろしくお願いしたい。

◆グループについて、各地本からグループのみなさんを紹介していただき、ありがとうございました。会社は会社で頑張っていただいて、組合は組合で仲間を支え合う。是非グループのいろいろなものを使っていただくことが、助け合いである。互助の活動をよろしくお願いする。

水害から車両を逃がす

池上 賃金対策部長

◆昨年の水害を受けて、新幹線車両が水没したということもあって、今回も水害が予測される状況下にある場合、車両を逃がすことを考えていると聞いている。新幹線協議会と連携して、安全面に対して、しっかり議論を深めていきたい。

併せて現在の新幹線鉄道事業本部に組織改正されて、新幹線協議会も検証等がやれるようになったことも含めて、新幹線担当として、新幹線協議会と連携して、新幹線鉄道事業本部としっかり議論していきたい。

◆大橋福知山市長が、無事に当選ということで、見事に成果を出されたということで、心から敬意を表したい。

◆政治について、私たちが応援した政治家の皆さんが、いつどこで何をしているかが全然分からないというご意見をいただいたので、活動報告については掲示していくことを方針に書かせていただいた。